



# 新聞まさひこ通信

## あけぼの曙

発行責任者  
福岡県議会議員  
新開昌彦

福岡市早良区曙 2-1-35

Vol.39 平成 20 年 4 月 24 日発行

## 20 年度 予算議会報告 乳幼児医療費、通院も未就学まで 拡大。父子家庭にも医療費を補助。

福岡県の平成 20 年度予算を審議した 3 月定例議会が 2 月 27 日から 3 月 28 日まで開かれました。

この中で、県から市町村に対する医療費の補助制度の改正案が提案されました。

同案は、**これまで3歳未満となっていた乳幼児医療費の通院の補助対象が、小学校前までに拡大(結果、市町村が更に制度の拡充を計画)するほか、母子家庭への医療費補助を父子家庭にも拡大、また、重度の身体・知的障害者を対象としていた医療費補助に重度の精神障害者を加える** などの内容です。公明党がかねてから主張していた医療費補助制度の拡充が図られました。10月から各市町村において実施する予定です。

一方で、少子高齢社会の進行の中でも持続可能とする制度とすることや、負担の公平性などを理由に、乳幼児医療費、障害者医療に所得制限を設けるほか、65歳以上の障害者医療において現行の初診料のみの負担から定額制への移行も盛り込まれました。一人暮らし寡婦への助成は廃止するなどの案が出されました。



予算特別委員会の委員として、論戦を張り、知事にも迫りました。



予算特別委員会で知事に質問をしました。

### 自己負担を最小限に 激変緩和措置を求める

なかでも、65歳以上の重度障害者から自己負担を求めることに対して、激変緩和措置をとるよう、公明党福岡県議団は、代表質問、予算特別委員会で執行部をただしました。

私は、知事に対して予算特別委員会で、直接答弁を求めました。

制度を守るために障害者を泣かしてはならない。10月実施ならば、それまで、障害者の実態把握のため、家庭訪問をし、生の声を徹底して調査し、自己負担の公平性を期すならば大病院が無い地域の人のために一医療機関500円ずつとした医療費を月額500円とするよう求めました。

知事は、「10月実施までの間に障害者の実態をよく調査・分析し、実態にそった方針で臨みたい」と答弁しました。

# 予算特別委員会で論戦

## 24時間訪問看護ステーションに 駐車禁止除外標章を公布

地域のナースステーション的存在の24時間訪問看護ステーションは、医師の指示による緊急出動がある。在宅医療を進める上では、医師の駐車禁止除外標章を交付すべき。



訪問看護が緊急の対応をしなければならないことを認識している。

緊急医療を行う看護師には、医師に準じて駐車禁止除外標章の公布が可能と考えます。

## ジェネリック薬品の普及で お年寄りの医療費負担を軽減

平成17年、公明党の野田議員がジェネリック薬品の普及を提案。福岡県後期高齢者医療広域連合が出す医療費の通知にジェネリック薬品との差額を明示するシステム導入を提案。

ジェネリック薬品のシェアが30%を達成すれば、県の医療費は、231億円削減。患者の負担は約2割軽減される。

患者から申請しやすくなるよう、県、県医師会、県薬剤師会連名のポスターを病院や調剤薬局に張り出す。

広域連合には、差額を明示するシステムの資料を提供していく。市町村にも啓発を促していく。



## ウィルス肝炎対策を知事に申し入れ

ウィルス肝炎の感染者が全国で340万人と推計され、死亡者も増加していることから公明党福岡県議団は3月26日、肝炎の総合的な対策を求める申し入れを麻生渡知事に行いました。

総合相談窓口の設置 検査体制の拡充 正確な情報提供などの無いようです。



## 障害教育の教員別枠採用を実施

平成16年予算特別委員会で私は、障害児の教育は専門性が重要として教員の別枠採用の提案をしていました。

平成19年度の教員採用試験で別枠採用の選考が実施され、4人の受験があり中学教諭として1人の採用が決定しました。